

ルシア塩満



パラグアイへのアルパ留学を経て、アルパ奏者として1975年プロ・デビュー。日本でのパラグアイ音楽・文化普及の功績が認められてパラグアイ政府から1995年に【文化功労賞】、2004年に【国家功労勲章・コメンダドール位】授与の榮譽を得る。海外ではアルゼンチンの世界的な音楽祭『コスキン・フェスティバル』に5回出場。2007年と2016年に『世界アルパ・フェスティバル(パラグアイ)』での招待演奏。2009年と2012年にはベネズエラで単独コンサート開催など華々しい活動は南米各地にも知れ渡る。2013年には自分のトリオを組んでパラグアイでコンサートを行うという長年の念願を果たす。2015年には40年間にわたるパラグアイ音楽への情熱に対して、オラシオ・カルテス大統領から温かい感謝状が贈られる。国内でのコンサートはサントリーホール・ブルーローズ、フェニックスホール、JTホール、東京文化会館小ホールなど多数。日本とパラグアイの文化交流の担い手として活動する。

高橋マサヒロ



フォルクローレ・グループ「グルーポ・カンタティ」や「ルス・デ・ナスカ」の一員として演奏活動を続けた後、フォルクローレの本場ボリビアへ渡り研鑽を積む。1994年にはボリビアでCDを録音し、現地マスコミの間で注目される。1995年にケーナとサンポーニャの新たな音楽性・可能性を追求するために違うジャンルで活動するミュージシャンとグループを結成し演奏活動を始める一方、ケーナ、サンポーニャを主体とするCDを自主制作する。アレンジも担当。2013年にはルシア塩満のパラグアイ・コンサートに同行する。

高山直敏



1985年から独学でケーナの演奏を始める。1994年からルシア塩満トリオのメンバーの一人として全国各地の演奏に参加する。1995年からルシア塩満の海外公演にも加わり、パラグアイ、アルゼンチン、チリなどのステージで演奏する。ことにアルゼンチンでは世界的音楽祭『コスキン・フェスティバル』でルシア塩満のギター伴奏を務め好評を博す。2014年には川俣コスキンの日本代表として4度目の同ステージに立つ。パラグアイでは『世界アルパ・フェスティバル』にルシア塩満の伴奏者として2度ステージに立つ。現在は活動拠点を那須に移し、栃木県内5ヶ所で音楽教室を主宰、毎年8月には南米音楽の祭典『音魂祭(おんこんさい)』を塩原温泉で開催している。

コンフント・ロス・クラカケス



結成以来、東毛地域を拠点にフォルクローレ(中南米民族音楽)の演奏活動を行っている。現在のメンバーは6名。県内でも数少ないフォルクローレ・バンドとして、一部の熱烈なファンの支持を集めている。これまで群馬県内外を問わず、小中学校や幼稚園・保育園、老人福祉施設、医療機関、その他各種集会など様々なところで演奏を行ってきた。近年は小学校の音楽の授業で中南米音楽が取り上げられていることから、子どもたちに生の音楽を聞かせたり、独特な楽器に触ってもらったりする機会として、学校公演にも力を入れている。昨年9月、「結成40年記念コンサート」を邑楽町中央公民館 邑の森ホールで開催。チケット発売からほどなくして完売となり、満席のお客様と共に大きな節目を迎えることができた。今回のコンサートでは、前回とは違った曲目を準備、フォルクローレの新たな魅力をお伝えし、とらと張り切っている。